

## 令和4年度（2022年度）施策評価シート

### 1 評価シートの位置づけ

東海市スポーツ推進計画（令和4年度から令和10年度）の施策に基づき実施した事業や次年度以降の方向性等について、東海市スポーツ推進会議において確認を行い、当該年度の施策を評価したもの。

### 2 スポーツ推進計画の基本的な考え方、計画目標・テーマ

自ら身体を動かして行う「する」スポーツだけでなく、プロスポーツを始めとした各種競技大会を観戦する「みる」スポーツ、監督・指導者や大会のスタッフ・ボランティア、また、ファンとして関わる「ささえる」スポーツの場面での取組を進め、スポーツに関わる人を増やし、市民の心身の健康を高めるとともに、スポーツを通して人と人との交流を深め、地域の一体感や活力あるまちづくりにつなげていくことで、東海市都市宣言の「生きがいがあり健康なまち東海市」の実現を目指す。

**【計画目標】** スポーツに関わる人を増やし、健康で活力あるまちづくりに貢献する。

**【テーマ】** スポーツを「しよう！」「観よう！」「支えよう（応援しよう）！」

～ スポーツのチカラで、一体感と活力を！ ～

### 3 指標の推移

基本施策	成果指標	基準値 R1 年度	現状値 R4 年度	目標値 R10 年度
I 「スポーツライフの推進」	スポーツを実践している人の割合	51.4%	50.6%	58.0%
II 「アスリート活動の推進」	全国大会等出場件数	205 件	212 件	230 件
III 「スポーツによる交流の推進」	市外からのスポーツイベント参加者数	2,169 人	1,961 人	3,300 人
IV 「スポーツに親しむ場の整備」	スポーツをしやすい環境が整っていると思う人の割合	65.3%	67.5%	72.0%

## 基本施策 I

### スポーツライフの推進

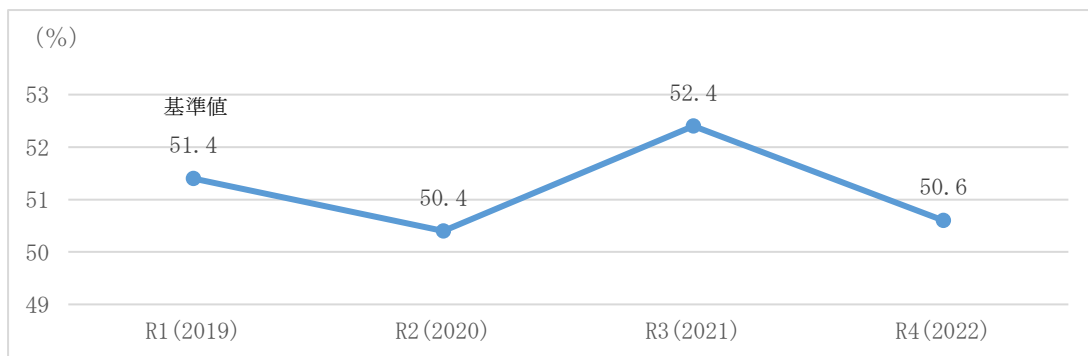


誰もが体力や年齢、障がいの有無等に関わらず、気軽にスポーツに親しむことができるよう、各種スポーツ事業の充実を図るとともに、身近な地域での活動も拡充する。また、各種スポーツ大会の開催支援やスポーツを支える指導者を増やすなど、市民の生涯にわたるスポーツ活動を推進する。

#### ① 指標の推移

成果指標：スポーツを実践している人の割合

目標値：58.4%



×	基準値から 0.8 ポイント低下、前年度から 1.8 ポイント低下。 未だ新型コロナウイルス感染症による行動制限の余波によるものと推測する。その他、令和 3 年度はオリンピック開催によるスポーツ機運の高まりにより、増加したものと推測する。
---	--

基準値に対して、改善○、横ばい△、悪化×

#### ② 主な取組

##### 1-1 生涯スポーツ活動の充実

取組の方向性	参加しやすいスポーツ機会の充実 子どもたちのスポーツ機会の充実 働く世代のスポーツ機会の充実 スポーツ関係団体との連携
主な事業	体力テスト&スポーツ体験会、市民ミニテニス大会、夕涼みモルック（市・スポ進）、地域スポーツ振興事業（コミ・スポ進）、みんなでウォーキング（市・スポ進・民間）、ふれあいスポーツ大会（市・身障者福祉協議会）、シニア健康フェスティバル（市・クラブ）、スポーツ出前授業（小学校・企業）、各種スポーツ教室・体験会、スポ

	ーツフェスティバル GO!GO!とうかい (クラブ)、スポーツ体験会、こども剣道教室、障がい者スポーツボランティア活動、学校部活動支援ボランティア (大学)、卓球・カローリング・吹き矢部活動 (身障者福祉協議会) 貸出用具スポーツ体験会 (公園・スポ進)
課題・次年度の方向性	各種団体が連携し、スポーツの日に合わせたスポーツ体験会やイベントを開催するなど、誰もが参加しやすいスポーツ機会の充実を図る必要がある。

## 1-2 競技スポーツ活動の充実

取組の方向性	競技活動のできる環境の確保 スポーツ指導者の育成及び派遣制度の確立
主な事業	東海市ジュニアスポーツフェスティバル (市・クラブ・小中学校)、各種市民大会、ジュニアクラブ (クラブ)、スポーツ指導者認定制度 (クラブ・大学)、スポーツ指導者派遣 (大学)
課題・次年度の方向性	小中学生を対象としたジュニアクラブの充実を図るとともに、中学校の部活動の地域移行を見据え、指導者の確保と派遣できる体制整備を進める必要がある。

## ③ 施策の評価

施策の成果動向は、「横ばい」と評価する。

「スポーツを実践している人の割合」は、基準値から 0.8 ポイント低下しているものの、新型コロナウイルス感染症による行動制限による余波が残る中、各種スポーツ事業を着実に実施することができたことから、「横ばい」と考える。

今後も市民、行政、各種団体等が連携し、各種スポーツ事業の充実を図るとともに、スポーツを支える指導者の確保や派遣に向けた体制を整備し、市民の自主的・継続的なスポーツ活動の推進に努める必要がある。

成果動向を「順調」「横ばい」「順調でない」のいずれかで評価

## 基本施策Ⅱ

### アスリート活動の推進



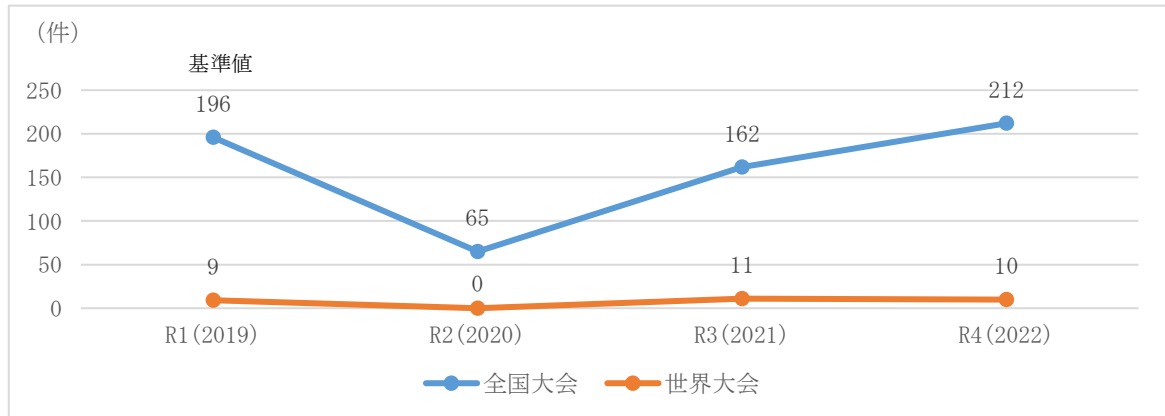
ふるさと大使である企業スポーツチーム等と連携して試合観戦やスポーツ教室等の機会を提供し、アスリートの発掘・育成に努める。

また、全国大会等に出場する選手の激励事業や優秀な成績を収めた選手や団体を表彰するなど、アスリート活動を支援する。

#### ① 指標の推移

成果指標：全国大会等出場件数

目標値：230件



○

基準値から16件増加、前年度から50件増加。  
新型コロナウイルス感染症の影響による制限緩和が進み、徐々にスポーツ大会が開催されるようになってきたことに加え、激励制度が定着してきたことによるものと考える。

基準値に対して、改善○、横ばい△、悪化×

#### ② 主な取組

##### 2-1 アスリートの発掘・育成

取組の方向性	企業スポーツチーム等との連携 目標となる大会等の開催 一貫した活動体制の整備
主な事業	ふるさと大使等スポーツ連携交流事業（市・クラブ） 山崎武司杯、インドアソフトテニス大会（クラブ）
課題・次年度の方向性	ふるさと大使である企業スポーツチーム等との連携を進め、スポーツ出前授業や市民とふるさと大使が交流できるイベントの内容を充実させる。

## 2-2 アスリートの支援

取組の方向性	アスリート活動の支援
主な事業	全国大会出場者激励事業（市）、 スポーツ功労者表彰（クラブ）
課題・次年度の方向性	引き続き全国大会出場に伴う激励制度の周知を図る。また、身近なアスリートの活躍を市民に伝え、応援するとともに、市民のスポーツ機運を高める必要がある。

### ③ 施策の評価

施策の成果動向は、「順調」と評価する。

「全国大会等出場件数」は、基準値から16件増加しており、徐々にスポーツ大会が開催されるようになってきたことや、激励制度が定着してきたことによるものと考ええる。また、新たにスポーツ出前授業や市民とふるさと大使が交流できるイベントを開催し、ふるさと大使を応援するとともに、市民のスポーツ機運を高めることができたことにより、「順調」と考える。

今後もふるさと大使である企業スポーツチーム等との連携を進め、アスリートを目指す子どもたちの発掘・育成をするとともに、全国大会等に出場する選手の支援を継続し、アスリート活動を推進する必要がある。

成果動向を「順調」「横ばい」「順調でない」のいずれかで評価

## 基本施策Ⅲ

### スポーツによる交流の推進



ハーフマラソン等の魅力あるスポーツイベントの開催や姉妹都市等とのスポーツ交流を推進し、広域的な交流人口の拡大を目指します。

また、トップチームやアスリートの試合・合宿等を誘致し、スポーツ交流によるまちのにぎわいづくりを推進します。

#### ① 指標の推移

成果指標：市外からのスポーツイベント参加者数

目標値：3,300人



×	基準値（前回大会）から208人低下。 ハーフの部、市民を含む申込者数においても前回大会の2,672人に対し、R4は2,346人と326人低下しており、新型コロナウイルス感染症による行動制限の余波によるものと推測する。
---	---

基準値に対して、改善○、横ばい△、悪化×

#### ② 主な取組

##### 3-1 広域的なスポーツ交流活動の充実

取組の方向性	大規模スポーツイベントの開催 姉妹都市等とのスポーツ交流の推進 トップチーム等の試合や合宿の誘致
主な事業	東海ハーフマラソン（市・企業・大学・クラブ・コミ・小中学校、スポ進）、姉妹都市スポーツ交流事業（市・クラブ）、身障者スポーツ大会、グラウンドゴルフ大会（県・身障者福祉協議会）
課題・次年度の方向性	冬の一大イベントである東海ハーフマラソンをより魅力ある大会となるよう各種団体との連携を強化し、会場や沿道での盛り上げ、交通規制に伴う渋滞に対する対応などを見直し、実施する必要がある。

### ③ 施策の評価

施策の成果動向は、「横ばい」と評価する。

「市外からのスポーツイベント参加者数」は、基準値から 208 人低下したものの、東海ハーフマラソンにおいて全国各地で開催されるマラソン大会に関するインターネットの情報サイトである RUNNET（ランネット）や YouTube や Twitter などの SNS を利用し、効果的な PR ができたことにより、新型コロナウイルス感染症による行動制限の余波が残る中、低下が少なかったものと考えられる。

また、姉妹都市釜石市とラグビーを通じたスポーツ交流を 3 年ぶりに行うことができたことにより、「横ばい」と考える。

今後も東海ハーフマラソンや姉妹都市等との広域的なスポーツ交流活動を市民・地域・各種団体・行政が一体となって取組、まちのにぎわいづくりにつなげる必要がある。

成果動向を「順調」「横ばい」「順調でない」のいずれかで評価

## 基本施策Ⅳ

### スポーツに親しむ場の整備

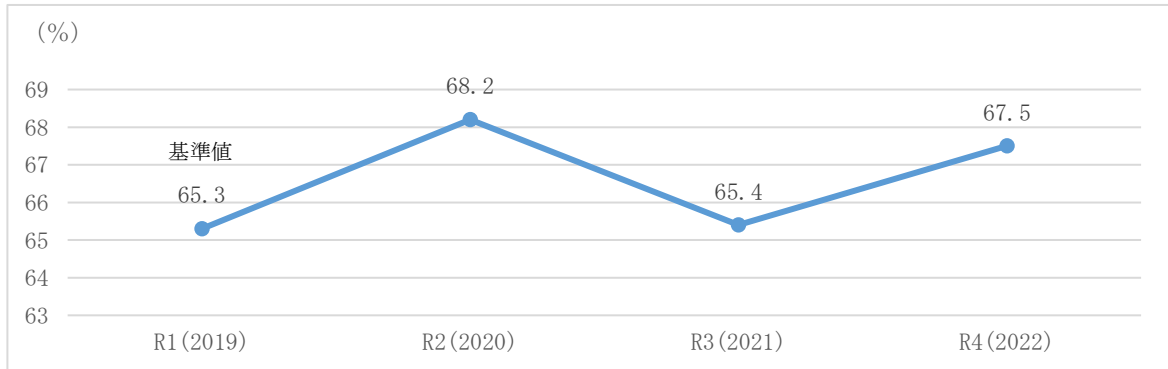


利用者が安全に安心してスポーツに親しむことができるよう、施設の長寿命化を図るなど、適切な管理運営に努める。

また、市民に身近な公園や緑道等を活用し、スポーツ交流拠点機能が果たせるように整備を進めるとともに、スポーツ施設の在り方についても検討する。

#### ① 指標の推移

成果指標：スポーツをしやすい環境が整っていると思う人の割合 目標値：72.0%



○

基準値から 2.2 ポイント増加、前年度から 2.1 ポイント増加。  
市民体育館の外壁改修や柔道場畳更新事業などにより、環境が改善されていることが考えられる。

基準値に対して、改善○、横ばい△、悪化×

#### ② 主な取組

##### 4-1 スポーツ施設の整備・運営

取組の方向性	スポーツ施設の在り方の検討 スポーツ施設の整備 スポーツ施設の管理運営
主な事業	市民体育館管理運営、維持補修、サブアリーナ空調機整備、外壁等改修、トレーニング室整備、柔道場畳更新事業、温水プール管理運営、屋外運動施設管理運営（市）
課題・次年度の方向性	スポーツ施設の老朽化に対応するため、市民体育館の床面や照明の改修、加木屋テニスコートの人工芝張替えに着手する必要がある。また、市内スポーツ施設の現況やスポーツに対する市場動向を調査し、今後のスポーツ施設整備の方向性について検討する必要がある。



#### 4-2 身近なスポーツ環境の整備

取組の方向性	公園や緑道等の整備・活用 学校体育施設の活用 大学や企業、民間スポーツ施設との連携
主な事業	地域・生涯スポーツ推進活動事業、学校体育施設スポーツ開放事業(市)、都市公園でのスポーツ用具の貸出(市・指定管理)、企業スポーツ施設の地域開放(企業)
課題・次年度の方向性	公園においても気軽にスポーツを行えるよう都市公園に貸出用のスポーツ用具を追加で配備するとともに、PR方法を検討する必要がある。 また、市民のスポーツの場の拡充を目指し、大学や企業、民間施設との連携を進め、地域への開放に向け検討する必要がある。

#### ③ 施策の評価

施策の成果動向は、「順調」と評価する。

「スポーツをしやすい環境が整っていると思う人の割合」は、基準値から2.2ポイント増加しており、市民体育館の改修工事等を着実に実施したことによるものと考えられる。

また、都市公園において、陸上長距離練習会やスポーツ体験会の実施、小中学校運動場や体育館の地域開放を実施できたことにより、「順調」と考える。今後も市民体育館や元浜・加木屋運動公園、荒尾スポーツ広場を始め、各種スポーツ施設の長寿命化を図るなど、利用者が安全に安心してスポーツに親しむことができるよう、適切な管理運営に努めるとともに、市内スポーツ施設の利用状況やスポーツニーズを把握し、時代に即したスポーツ振興に向け、スポーツ施設の在り方について検討する必要がある。

成果動向を「順調」「横ばい」「順調でない」のいずれかで評価